

# アルミ輸入は二次合金際ぎ減少

## LMEアルミ、一六〇〇ドル前後か

橋本金属  
・アルミ  
橋本健一郎氏リポート②



橋本健一郎氏

六月前半は、五月の米雇用統計待ちからの警戒感や

四月の独小売売上高は前月比〇・九%減、予想は〇・九%増、五月の独失業者数は

一・二万人減の二六九・五万人、予想は五、〇〇〇人の減少だった。失業率は六・一%で一九九〇年以降最低などのマイナス材料もあったが、五月の米雇用統計の悪化で一景気見通しに新たな疑問が生じた。指摘、利上げ時期の特定を見送り、市場で六月利上げの可能性は下がったとの認識や、四月の米個人消費は前月比一%増、予想は〇・七%増だった。個人消費の伸び率は六年八月月ぶりの大きな伸びだったことなどを好感しLMEアルミ相場はUP、六月十五日時点で一、六〇五ドル(現物後場買値)と月初価格から五九ドルUPの前半締めとなった。

後半は、1Qの米GDP伸び率確報値は前期比一・一%増に上方修正。予想の一%増を上回る。四月の米新築住宅価格指数は前年比五・四四%上昇、予想は五・四一%上昇だった事による米利上げ観測や英国のEU離脱懸念などのマイナス材料もあったが、FOMCでの利上げ先送り、英国のEU離脱を受けて混乱は続くものの、景気対策期待などのプラス材料を受けてLMEアルミ相場はUP、七月一日現在でLMEアルミ(現物後場)一、六二二・五ドルと後半スタート価格から五ドルUPしてのスタートとなった。

◆月間のドル/円レート(TTS)  
一一・六七→一〇三・七五(円)。  
◆自動車生産台数  
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比一・七%増の六五万六、八一四台であった。  
◆自動車販売台数  
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比三%増の二八万七、七七〇台。

◆新設住宅着工戸数  
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比九・八%増の七万八、七二八戸であった。  
◆貿易関連指標  
輸出  
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前年比九・五%増の一五七七、二次合金が二九・三%増の一、六七七七、スクラップが七・六%減の九、五五六七、アルミ缶が七二・一%増の

五、一一六七。

### 輸入

輸入は新地金が前年比八・三%減の一三万九、三八九七、二次合金が七・四%増の八万九、七〇九七、スクラップが三八・六%減の五〇三七、合金スクラップは四二・〇%減の二、六九八七。

### 前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比二・六%増の一六万九、七九五七。

日本アルミニウム協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前年比三・八%増の六万〇、七〇八七であった。

### 概況

#### 【自動車生産】

五月の四輪車生産台数は六五万六、八一四台で、前年同月の六四万五、五三九台に比べて一万一、二七五台(一・七%)の増加となり、二カ月ぶりに前年同月を上回った。五月の車種別生産台数は、乗用車は五万五、〇七〇台で一、四、八九七台(一・八%)の増加となり、二カ月ぶりのプラス。トラックは九万二、五一四台で三、〇四四台(三・二%)の減少となり、一三カ月連続のマイナス。バスは一、〇、二三〇台で五七八台(五・三%)の減少となり、六カ月連続のマイナス。

五月の国内需要は三三万二、五八七台で、前年同月比一・二%の減少であった。うち乗用車二七万五、五〇五台で前年同月比一・四%の減少、トラック五万五、三〇七台で同〇・五%の減少、バス七、七五五台で同二・一%の増加。

輸出は前年同月比四・六%の増加(実績)。

#### 【自動車販売】

六月の国内自動車販売台数(軽除く)は二八万七、七七〇台で前年比三%増と、三カ月連続プラス。うち乗用車三、六%増、貨物一・二%減、バス一・五%増。

#### 【住宅着工数】

平成二十八年五月の住宅着工戸数は七万八、七二八戸で、前年同月比九・八%増となった。また、季節調整済年率換算値では一〇・七万戸(前月比二・二%増)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で五カ月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅ともに増となった。(六面へ続く)

(四面より続く)

【アルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績】  
前年比三・八%増の六万〇、七〇八tと三  
カ月連続プラス。出荷は三・七%増の六万〇、  
五三三tと三カ月連続プラス。このうち、出  
荷先別では、鋳物五・四%減、ダイカスト一  
〇・二%増、板一〇・八%減、押出二・四%  
増、鉄鋼六・四%増、合金地金メーカー一〇・  
九%減。

【アルミ圧延・押出品生産数】  
二・六%増と三カ月ぶりプラスの一六万九、  
七九五t。板類は生産、出荷とも三カ月ぶり  
にプラス(出荷は先月の三・〇%減↓三・七  
%増へプラスに転ず)。

【輸出】アルミ新地金が前年比九・五%増  
の一五七t、二次合金が二九・三%増の一、  
六七七tスクラップが七・六%減の九、五五  
六t、アルミ缶が七二・一%増の五、一一六  
t。

【輸入】アルミ新地金が前年比八・三%減の一  
二万九、三八九t、二次合金が七・四%増の八  
万九、七〇九t、スクラップが三八・六%減の五  
〇三t、合金スクラップが四二・〇%減の二、六  
九八t。

【見通し】  
・自動車は生産が一・七%増。五月の国  
内販売台数が前年比三%増。生産が二カ月  
ぶりプラス、販売が三カ月連続プラス。生  
産が再びプラス。販売に至っては大幅増!  
今後の回復が期待される。

・住宅着工の動向については、前年同月  
比で五カ月連続の増加となっており、利用  
関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、  
分譲住宅ともに増となった。  
引き続き、今後の動向をしつかりと注視  
していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数は、圧延、  
押出共にプラスに転ず。三カ月振りプラ  
ス。  
・アルミニウム二次合金・同合金地金等  
生産実績は、自動車生産の増加を受けて増  
加。ただ、合金メーカー向けへの出荷は微  
減。住宅着工の増加を受けて押出し向け出  
荷が二・四%増。

・輸出は、内需の低迷を受けて半製品は  
大幅増加。スクラップは発生難から減少!  
・輸入は、内需の低迷や円高から半製品  
を除き減少。

【スクラップ需給予想】  
流通在庫は、英国のEU離脱後もLME  
は安定していることから、メーカーの値上

げがない限り市中にでることはないのでは  
ないか?

ここ最近の自動車、住宅の生産増を考え  
れば更に需給のひつ迫状態は続くであろう。

【価格・為替予想】

今月は、EU離脱問題が長引き変化がな  
さそうな事から材料視されず米利上げ問題  
及び、中国の金融政策に左右される。

米利上げ観測に関しては、英国のEU離  
脱が決定した事による世界経済の先行き不  
透明感から一部で利下げの観測が出始めた。  
即利下げとはいかないまでも、利下げの声  
が大きくなる可能性は十分ある。

中国の金融政策も自国経済の低成長に加  
え、重要輸出先である欧州問題をうけて、追  
加緩和がされる可能性も十分ある。

それらを踏まえた七月のアルミ価格は、  
米国の利下げ観測が前進し、中国の追加緩  
和が行われた場合、心理的節目の一、七〇〇  
ドルを予測。いずれかの場合は一、六〇〇  
ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった  
場合、六月安値の一、五〇〇ドル。

為替は英国のEU離脱にもなう対  
ユーロでの円高、米利下げ観測期待から  
円高トレンドにあるが、G七の流れを受  
けての介入がしにくい現状や追加的な金  
融緩和策が難しいことから円高が続くの  
ではないか。

それらを踏まえ予測は、上値は日本が何  
らかの為替対策を結果的に一切行わず、米  
利下げ観測が前進した場合、一〇二円台(T  
TM)を予測。下値は、日本がさらなるマイ  
ナス金利策や為替介入などを行い、米利利  
下げ観測が後退した場合、六月後半安値の  
一〇六円を予測。

米金利  
先物 年内の米利上げ確立二九%

米短期金利先物相場では、六月開催の米  
連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨の  
公表後も、年内利上げ見送りとの見方が依  
然優勢となった。

市場が織り込む年内の利上げ確率は一九  
%にとどまっている。

議事要旨では、欧州連合(EU)離脱の是  
非を問う英国民投票を翌週に控え、利上げ  
に踏み切る前に国民投票の影響を見極める  
ことが望ましいとの結論に至っていたこと  
が判明している。